

◆授業設計のポイント◆

- ・情報を多面的・多角的に精査し構造化する学習過程の設計
- ・思考ツールを用い自らの考えを広げ深める対話
- ・見通し・振り返る活動の充実を図るためのルーブリックの活用

国語科学習指導案

学 級 2 年 4 組 (男子 18 名 女子 17 名 計 35 名)

場 所 2 年 4 組 (2 年 校 舎 3 階)

授業者 教 諭 矢 田 目 美 樹

1 単元名 鹿児島の魅力が伝わるプレゼンテーションをしよう

教材名「資料や機器を効果的に活用する プレゼンテーション」

2 本単元における言語活動

プレゼンテーションで鹿児島魅力を説明する活動 (関連 : 言語活動例 2 年 ア)

3 単元設定の理由

(1) 教材観

プレゼンテーションとは資料や機器を使いながら研究や調査結果を発表したり、企画を提案したりすることである。近年、多様な場面で、プレゼンテーションは行われるようになった。学校現場においてもこれまで模造紙に書いた文字や図表グラフ等を提示しながらの発表がなされてきた。これらもプレゼンテーションの一種といえる。

今回は実際の社会の中でもよく行われているスライドやフリップを用いたプレゼンテーションを行うこととする。制限時間内でどのようにプレゼンテーションを展開すればわかりやすいか、相手意識や目的意識を念頭に置きながら考えていく中で、生徒は資料を整理し比較したり、吟味したり、結び付けたりしながら、わかりやすい資料作りやそれを提示するタイミングなど資料や機器の効果的な活用方法を学ぶことができると思う。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、一年生時に総合的な学習の時間で、郷土について調べたことをパソコンやリーフレットや壁新聞を使ってまとめるプレゼンテーションを経験した。さらに1年時教材において学校紹介リーフレットも作成している。その際、相手や目的を意識しながら伝えたいコンセプトに合うように情報を選択する活動を行っている。一方、必要な情報を選択することはできるが、それらの情報をただ羅列してしまい、伝えたいことがわかりにくいプレゼンテーションも見られた。そこで今回は、さらに相手に分かりやすく伝えるために、論理の展開を意識して、資料の構成を工夫していく資質・能力の伸長を図りたい。

(3) 言語活動の特性

スライドやフリップを作成する際、生徒の興味はアニメーションやデザインに向かうことが多い。この単元では目的や相手を意識しながら、発表する内容がわかりやすく整えられているかという点と、発表に

際して資料や機器が効果的に使われているかという点を重視させたい。そこで、一年生に向けて鹿児島の魅力を分かりやすく説明するという言語活動を設定する。お互いにある程度郷土のよさに対する知識を共有している中で、どのようにすればわかりやすいプレゼンテーションとなるか、上記の二点を意識して活動ができるような工夫が求められる。

(4) 言語活動の工夫

導入で、昨年度生徒が作成したプレゼンテーションと、教師が展開の工夫を意識して作成したプレゼンテーションを比較する活動を取り入れる。このことにより、発表する内容を整理することと効果的な資料や機器の活用が、分かりやすいプレゼンテーションには必要であるという理解を促し、単元の目標として設定する。また、どのようなテーマにするかグループで話し合う活動を取り入れることで、既存の知識や学習経験を想起させるとともに、学習への意欲を高めたい。

展開では、テーマに沿った情報収集を行う。その際スライドを用いた様々な論理の展開の仕方についていくつかの型を示すことで、自分たちのプレゼンテーションの展開を考えやすくする。テーマに沿って収集した情報を、構成シートを用いることで比較したり、吟味したり、結び付けたりできるようにする。その整理した情報を基に、構成シートを作成しこの練り上げの過程で汎用的な資質・能力「情報活用力」レベル4の姿を目指していく。その後、相手意識や目的意識に沿っているかを確認するためにリハーサルを行う場を設定する。

終末では、実際に1年生にプレゼンテーションを行い評価をもらう。そこで自分たちが考えた工夫がよかったかどうか確認することで、次の学習へ結び付けていきたい。

4 単元の目標

- (1) テーマに沿って集めた複数の情報を、整理し、伝えたい内容を検討することができる。
(知識・技能【情報の扱い方 イ】)
- (2) 論理の展開に注意して、伝えたい内容の構成を工夫することができる。
(思考力・判断力・表現力等【話すこと・聞くこと イ】)
- (3) 相手に伝えたい内容の価値や魅力が伝わるような提示資料を作り効果的に用いることができる。
(思考力・判断力・表現力等【話すこと・聞くこと ウ】)
- (4) 相手や目的を意識しながら、提示資料を効果的に用いてプレゼンテーションをしようとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

5 単元における評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに沿って集めた複数の情報を整理し、伝えたい内容を検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠や論理の展開に注意して、伝えたい内容の構成を工夫することができる。 ・ 相手に伝えたい内容の価値や魅力が伝わるような提示資料を作り効果的に用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的を意識しながら、提示資料を効果的に用いてプレゼンテーションをしようとしている。

6 単元で目指す深い理解の姿

どのような展開で内容を伝えたのかということや、作成した資料やその使い方の工夫点について説明することができる。



わたしたちの班では、昨年総合的な学習の時間で調べたことを基に、島津斉彬の偉大さについて説明しようと考えました。斉彬の偉大さは、未来を見据えて政治を行ったことにあると考えました、そのような考えに至ったことを、時系列で調べたことを並べていくことにしました。そこで、左のようなスライドを準備し、わかりやすい説明を目指しました。特に工夫したところは、・・・のところでも尚古集成館の項で反射炉の写真を入れたところです。このことによって、当時の産業にとどまらない斉彬の発想のスケールの大きさが伝わると考えました。

7 単元の指導計画（全6時間）

過程	活動のねらい	主な学習活動	時数	指導上の留意点
導入	○ 様々な表現の方法について考えを深める。	1 壁新聞、リーフレットパソコンでのプレゼンテーションを比較し、それぞれの特徴やよさを話し合う。	1	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、総合的な学習の時間で使用したプレゼンテーション資料を準備することで、その特徴やよさを体験を交えて、語るができるようにする。 説明する上で効果的に資料を活用できる方法について考えることを助言して、パソコンを使ったプレゼンテーションに意識が向くようにする。
	○ わかりやすいプレゼンテーションについて考えを深める。	2 資料を効果的に活用したわかりやすいプレゼンテーションについて話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、生徒が作成したプレゼンテーションと、それを教師が整理したものを提示することで、本単元のねらいを具体的に捉えることができるようにする。
	○ 単元の概要を捉える。	3 単元の学習課題を記述し、学習計画を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の総合的な学習を踏まえ、「鹿児島島の魅力」をテーマとすることを伝える。 1年生にプレゼンをする場面や意義を伝えることで、相手意識や目的意識が明確になるようにする。 	

【気付き】 説明の流れを最初に知らせることで、頭の中が整理されるな。
スライドの言葉を、わかりやすいものにしたいな。
説明するタイミングに合わせて、効果的にグラフや写真を用いることが大切だな。

	○ 提案内容を考える。	<p style="text-align: center;">【単元の学習課題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 資料や機器を効果的に活用して鹿児島の魅力が伝わるプレゼンテーションにするためにはどのような工夫が必要か。 </div> <p>4 プレゼンのテーマについて話し合う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ループリックシートを配付することで、単元で身に付ける資質・能力を明確にするとともに、見通しをもつことができるようにする。 <p>常 課題発見力 レベル2</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いにウェビングマップを準備することで、考えに広がり生まれるようにする。 構成を示したスライドを掲示することで、プレゼンテーションの流れを意識してテーマを考えることができるようにする。(ここでは、わかりやすく説明するためにおおまかに3つの柱を考えることを助言する)
展	○ 情報収集の方法を考える。	5 テーマに沿って多様な手段や方法で情報を収集する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 再度、教師が作成したプレゼンを提示することで、グラフや表、写真といった視覚的に捉えやすい資料も集める意識が高まるようにする。 様々な調査方法を想起する場を設定することで、情報に偏りや重なりが生まれにくくする。
開	○ プレゼンテーションの構成を考える。	6 プレゼンテーションの構成について話し合う。	1	<ul style="list-style-type: none"> 「序論→本論→結論」という基本構成を踏まえ、特に本論を構成する情報についていくつかの型を示すことで、展開を整理しやすくする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p>【情報を示す順序の型として】 時系列, 大から小, 小から大 知っているから知らないこと 等</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに構成を書き込むよう促すことで、説明の流れを明確なものとする。
	○ 情報を整理し、説明の内容に合う適切な資料を考える	7 テーマに沿って収集した情報を整理し、構成シートを作る。	本時	<ul style="list-style-type: none"> 発表時間を確認し、スライドの枚数等を制限する。その上で構成シートを準備することで、情報を比較したり、吟味したり、

	る。	※ 構成シート →集めてきた情報を展開を意識して操作することで、整理していくシート。	1	結び付けたりしやすくする。
	○ 効果的な伝え方について考えを深める。	8 プレゼンテーションの練習を行う。 9 リハーサルを行い、相互評価をする。	1	<ul style="list-style-type: none"> 特に工夫した資料の示し方について説明することを促すことで、補足や強調、タイミング等への意識を高めることができるようにする。 観点を基に相互評価を行いアドバイスを送ることを促し、良い点や改善点を見出すことができるようにする。 <p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇伝えたい内容は明確か。 ◇展開は適切か。(特に本論の構成) ◇説明をわかりやすくするために効果的に資料が用いられているか。
<p>【納得】「このスライドの順番だと伝えたいことが〇〇ってということがはっきりわかるな。」 「ゆっくり説明すると考えやすいな。」「たくさんの言葉より、短い言葉でポイントを絞ってあるとわかりやすいな。」「〇〇の資料を先に提示してから、話した方がわかるな。」</p>				
終 末	○ 発表を基に、学びを自覚化し、次への意欲をもつ。	10 一年生に対してプレゼンテーションを行う。	1	<ul style="list-style-type: none"> 評価票を基にした中学一年生の評価内容を検討することで、展開や資料の工夫がよかったかどうか、さらに今後の自分の表現にどのように取り入れていくか考えることができるようにする。 <p>常 論理的思考力 レベル2 常 メタ認知 レベル2</p>
<p>【意志】「どのようにしたらわかりやすく伝わるか、説明の流れを考える事は大事なということがわかった。それに話す内容もポイントを絞ると伝わるのだとわかった。そしてどのタイミングで資料を使えばいいのかということも考えなければならないな。今後、何か調べて発表する際に今回の授業のことを思い出して、話しの展開や話し方や資料の提示の方法を工夫してみよう。」</p>				

8 本時の実際 (4/6)

(1) 目標

伝えたいことに向かって展開を意識しつつ、情報を整理することができる。

(2) 授業設計の工夫

ア 情報を多面的・多角的に精査し構造化する学習過程の設計… **研究の視点1**

本時では個人でテーマに沿って収集した情報を、比較や分類、関係付けながら整理し、構成シートを作る活動をおこなう。さらに他者に説明する場も設定することで、自分たちの説明の流れが適切かどうか確認できるようにする。

イ 思考ツールを用い自らの考えを広げ深める対話… **研究の視点2**

伝えたい内容を明確にするために対話を行う。グループで考えた説明の流れを基に対話を行う。その際、比較や分類、関係付けを行い、情報を整理しやすくするために情報をメモに表し、その操作が出来るようにした構成シートを活用することとした。

ウ 見通し・振り返る活動の充実を図るためのICEルーブリックの活用… **研究の視点3**

本単元のICEルーブリックはプレゼンテーションの作成の手順と、プレゼンテーションの説明ができることを目的とし、そのために身に付けたい資質・能力を示したものとする。このルーブリックを授業の導入と終末に活用し、見通しや振り返りを充実させたい。また単元の振り返りの際は、プレゼンテーションをする際の工夫について書けるように、本時の終末でも意識化を図りたい。

(3) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

情報活用力レベル4	
【子供の姿】 「内容が多すぎるから、もう少し削って、○○って言葉だけにしたらどうかな。」 「○○と△△の言葉を合わせて使ったら、説明の流れがスムーズかもしれないね。」 「この柱の順番は変えた方が、私たちの伝えたいことがわかるかもね。」 上記のように、テーマに沿って集めた情報を整理する姿	【手立て】 個人で集めた情報を、展開を意識しながら、比較・分類、関係付けするための思考ツールを準備する。

過程	主な学習活動	時間 形態	○指導上の留意点 ◎評価
導 入	<p>1 前時の学習内容を想起する。</p> <p>2 本時の学習目標と学習の流れを確認する。</p> <p>【学習目標】</p> <p>展開を意識しながら、情報を整理して構成シートを作る。</p> <p>【学習の流れ】</p> <p>① 個で収集した情報をグループ内で説明する。</p> <p>② どの情報がふさわしいか検討しグループで構成シートを作る。</p> <p>③ 作った構成シートをグループで説明する。</p>	<p>2分 一斉</p> <p>3分 一斉</p>	<p>○ 前時の学習を問い掛けることにより、本論の柱の型を想起できるようにする。</p> <p>○ ICEループリックを活用するよう促し、本時の位置付けや目的を確認できるようにする。</p> <p>【研究の視点3】</p> <p>○ ループリック表を活用し、情報活用力レベル4を目指すことも確認する。</p> <p>○ 活動の概要をモデルを使って示すことにより、見通しをもてるようにする。</p>
展 開	<p>3 個人で収集した情報を説明する。</p> <p>4 どの情報が柱に沿った展開にふさわしいか検討する。</p> <p>5 他のグループと構成シートの内容について交流し、改善策を見出す。</p>	<p>10分 グループ</p> <p>15分 グループ</p> <p>15分 グループ</p>	<p>○ スライドに用いる際のキーワードになりそうなところを強調するよう促し、情報の比較をしやすくする。</p> <p>○ 比較や分類、関係付けを行い、情報を整理しやすくするために、情報メモの操作ができるようにした構成シートを準備する。</p> <p>(情報活用力 レベル4) 【研究の視点1・2】</p> <p>○ 構成シートにスライドの完成イメージを記入できるようにし、視覚的に展開を捉えることができるようにする。</p> <p>○ 検討の途中段階において、活動が滞っているグループに対して他のグループの構成シートを紹介することで、活動のポイントを捉えられるようにする。</p> <p>○ 伝えたいことは何かを明確にした上で、どうしてその展開にしたのかを説明するよう指示する。また聞く側も特に展開に着目して、質問や助言を行うことを促し、展開について吟味できるようにする。</p> <p>◎ 伝えたいことに向かって、どのような情報を選んだのか、またなぜそのような展開にしたのかを説明することができる。</p> <p>○ 質問や助言を受けて気付いたことを構成シートに記録するよう指示し、次時の活動に結び付けやすくする。</p>
終 末	<p>6 ICEループリックで次時の内容を確認する。</p>	<p>5分 個</p>	<p>○ 次時では本時の構成シートを基にして、リハーサルを行うことを確認する。【研究の視点3】</p>

